

あきらめない訴えに応える神

マルコ 7 章 24～30 節

## 導入

皆さんは何が起こってもあきらめない信仰を持って神に訴え続けておられるでしょうか？わたしたちは、問題が起こり、神に訴えても良い方向に進まない時にあきらめられるのはあきらめないで訴え続ける信仰を持った人です。イエスは、「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」（マタイ 7 章 7 節）と言われました。実際に、決してあきらめない信仰を持って訴え続けた女性がマルコによる福音書 7 章 24～30 節に登場しています。イエスは、このあきらめないで訴え続けた信仰の姿勢を見て、神の不思議な業を現わされました。わたしたちもあきらめない信仰を持って神に訴え、この時代に神の不思議な業を見たいと思います。では、ここに登場する女性はどのようにしてあきらめないで神に訴え続けたのでしょうか？

当時、ユダヤ人はユダヤ人以外の者を異邦人と呼び、自分たちと区別し、彼らと接することは汚れると考えていました。ある時、イエスが異邦人の地に行かれると、汚れた霊に取り付かれた娘を持つ女性が悪霊を追放してくださるようにひれ伏して願いました。しかし、主はすぐにその訴えに応えられませんでした。彼女があきらめないで訴え続けたところ、その願いを聞き入れ、娘の悪霊を取り去られました。わたしたちの信仰生活にも神への訴えが応えられていないように感じる誘惑がありますが、あきらめないで訴え続けたいと思います。その時、神による不思議な業が行われます。そこで今日は「あきらめない訴えに応える神」について 3 つのことを学びます。

### 1 あきらめない訴えに応える神の元にひれ伏す

この女性は、ギリシア人でシリア・フェニキアの生まれ、ユダヤ人からすると異邦人です。その女性がユダヤ人であるイエスの元にひれ伏すとは当時の常識では考えられないことです。ユダヤ人が異邦人を区別していたので、異邦人もユダヤ人と接することはしませんでした。そのような状況の中で自分のプライドを捨て、娘の問題を解決するために、他の人からの非難を恐れることなく大胆に主の元にひれ伏したのです。(25 節 汚れた霊に取りつかれた幼い娘を持つ女が、すぐにイエスのことを聞きつけ、来てその足もとにひれ伏した。)  
「ひれ伏す」とは、「降参すること」です。神の不思議な業は、自分のプライドを捨て、神に降参することから始まります。一般的に降参は、敗北を意味しますが、信仰生活において神の元にひれ伏し、自分の力に頼らず降参することは勝利への道です。自分の力に依存している間は限界がありますが、不可能を可能にされる神を信じ、ひれ伏し、降参する時に神の栄光が現われます。(ヨハネ 11:40 イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。)神を絶対的に信じて疑うことなく、ひれ伏す者によって神の不思議な業が現われます。

### 2 あきらめない訴えに応える神から離れない

この女性が、イエスの元にひれ伏して訴えたとき、イエスは一見冷たい反応をされました。(27 節 イエスは言われた。「まず、子供たちに十分食べさせなければならない。子供たちのパンを取って、小犬にやっちはいけない。」)主は、自分の使命は神の民ユダヤ人を神の元に導くことであると強調されました。(マタイ 15:24 イエスは、「わたしは、

イスラエルの家の失われた羊のところには遣わされていない」とお答えになった。) イエスは、この言葉によって彼女の信仰を試されたのです。しかし、彼女は何が起こってもイエスから離れることがありませんでした。わたしたちの現実の世界では、厳しい状況が続き、戦いは激しく訴えても聞かれていないように感じる誘惑があります。しかし、彼女は訴えが聞かれるまで、決してあきらめることなくイエスから離れませんでした。イエスから離れない者は、神の不思議な業を見ることができます。神から離れない者は、神が味方となって、不思議な業を神が現してくださいます。(ローマ8:31 では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。)何が起こってもあきらめず、神から離れない人によって神の不思議な業が行われます。

### 3 あきらめない訴えに応える神に訴え続ける

彼女は、信仰を試された時もあきらめないで訴え続けました。彼女は、イエスの言葉をしっかりと聞いて、受け止め、主が必ず祈りに応えてくださることを信じて訴えました。(28節 ところが、女は答えて言った。「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。」)ここにでてくる「子ども」とはユダヤ人、「子犬」とは異邦人を意味します。彼女は自分が異邦人にすぎないことを知った上でそれでも必死になって主に訴えました。「食卓の下の子犬も、子どものパンくずはいただきます」と。その時、神の不思議な業が現わされたのです。主が彼女の必死なあきらめない姿勢を見て、彼女の娘の悪霊を追い出されたのです。(29-30節)イエスはあきらめないで訴え続ける信仰を喜んでくださいます。(マタイ15:28 そこで、イエスはお答えになった。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」そのとき、娘の病気はいやされた。)状況が厳しい時こそあきらめないで訴え、主に一番近づくことができます。願いが叶うまで訴え続けたいと思います。神は、何が起こってもあきらめない信仰を持って訴える者に神の不思議な業を現わされます。あきらめない訴えを聞いてくださる神を信じ、神の不思議な業を現わしたいと思います。